

令和5年度 精華学園高等学校 自己評価表

学校教育目標	教育目標：徹底的に生徒の立場に立ち、あたたかく、かつ甘えの無い指導を貫く。 中・長期目標：生徒自ら未来を切り開けるよう、生きる力、自立心、心豊かな逞しい精神を備えた生徒を育成する。
現状分析	①生徒自らが自分の進路を見出し、その進路実現に向け意欲的に行動させるための指導を強化する必要がある。 ②生徒の自立心を育み、社会性を身に付けるための生活指導を強化する必要がある。 ③学習習慣、基礎学力が不足している生徒が多いため、進路実現に向けた学習指導を強化する必要がある。 ④通信制の特色から個別学習が多くなるため、学校行事等を通じ、協調性を身に付けるための機会を増やす必要がある。 ⑤通信制の特色を活かし普通教科の学習に加え、資格や技能・技術を取得する機会を増やす必要がある。

単位制による通信制の課程

達成度	A	ほぼ達成 (80%以上)
	B	概ね達成 (60%以上)
	C	現状維持 (40%以上)
	D	不十分 (40%未満)

学校自己評価							
年度目標				年度評価			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断を毎年必ず受診させる。 資格や検定の受験を奨励すると共に、受験に向けての指導の充実を図る。 学習拠点周辺の巡回指導は、さらに定期的に行う必要がある。 生徒が主体的に参加できる企画や行事を増やし、役割と課題を与える。 タブレットの導入等を通じて、ICT教育を推進させる。 スクーリングやレポート添削、テストの実施に関して、ガイドラインに基づいた運営を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着とともに、生徒の登校日数を増やす。 資格試験や検定の受験者・合格者数を増やす。 問題行動予防に対する校内指導体制の確立。 生徒が主体的に参加できる仕組み作り。 生徒がタブレットで学習できるコンテンツの拡充。 学習指導・評価等の適正な実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎講座（英語・数学・国語）および、各種検定試験合格講座の開設。 授業や各種講座の実施時期について、効率的な教育活動計画。 校内の巡回指導による問題行動の予防。 生徒を励まし、注意を促す声かけ・挨拶の励行。 学校行事の充実と工夫、さらに積極的な参加への呼びかけの工夫。 レポート指導、スクーリング、テスト等の適切な実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職した卒業生の追跡調査。 生徒にどのように自信をつけさせ、動機付けをすればよいか。 個人面談や保護者相談の内容や回数は充実しているか。 生徒の登校率や、行事への参加状況の把握 全教職員による声かけ、挨拶運動を継続して行っているか。 生徒情報をシステムに登録し、教員間での情報の共有を図っているか。 健康診断が各地の医療機関で適切に行なわれているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 少子化の時代にも関わらず10年連続で生徒数は増加しており、2014年度と比べると約4倍になっていることから、時代の需要に応えた学校運営がしっかり行われていると感じる。 生徒が主体的に活動できるコースや行事等の取り組みは意欲的になされている。 安心メールを活用し、通学の安全や様々な学校連絡をスムーズに行なった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数の増加に伴い業務負担もこれに比例することから、業務内容の簡略化やデジタル化・クラウド化、新たな手続き方法の開発などを進める必要があるように思う。 生徒が学習により興味を持てるようなICTを活用した学習指導を今後も導入する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 進学実績を出せる生徒の募集方法をさらに工夫する。 学校ホームページのスマホ対策。 資料請求数の増加策。 特に進学校としての実績づくりと新たな教育を打ち出すためのコース戦略。 見学者の入学率をどのようにアップさせるかが課題。 保護者への連絡をさらに密にすることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内、県外高等学校、中学校に対する進学実績の情報提供。 学校見学会、個別相談会への動員確保の工夫。 インターネットでの情報発信（学校HP等）。 大学進学実績等の広報や新コースの創設。 保護者への連絡手段の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 高校、中学訪問を中心に指定校・推薦大学の情報提供を拡大。 本校生徒の具体的な進学状況を伝える資料の作成配布。 学習カリキュラムの可視化による生徒募集を円滑に進める。 学校見学会と個別入学相談だけでなく、体験学習会も拠点ごとに企画。 学校ホームページの改訂と定期的な更新。 全教職員が入試、生徒募集業務に意欲的に取り組み、学校訪問・見学者対応・HP 	<ul style="list-style-type: none"> 高校、中学校訪問を学校の紹介を一方的に行うやり方ではなく、基本的な人間関係を築きながら、相手の要望を聞きだしているか。 資料請求、学校見学会参加者が増加したか。 本校ホームページへのアクセス数が増加したか。 入試業務をミスなく円滑に行う。 家庭への連絡を増やして、覚書への入力が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内では最も早くICT教育を導入し、現在でも先端を担い続けている。一方デジタル社会においてもその歩は今後も更に加速するものと考えられることから、引き続き新たなICT活用の教育充実が必要と思われる。 HPや学校新聞を活用し、進学実績の情報提供に務めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一端末で毎年新たな機種が導入され、性能の向上も行われている。今後は更に加速するデジタル社会に対し、教育現場としてその時代を生き抜く人材の育成にこれまで以上に力を入れる必要があるように思う。 美術系の進路を目指す生徒の増加に伴い新たなコースを新設している。
3	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の進学率増加を目指す。 指定校推薦枠の拡充。 進学コースや基礎基本徹底コースの生徒を増員させる方策。 日本語検定・英語検定・数学語検定などの資格を取得させ、大学進学実績を増やす。 入試改革に向けて教員全体の意識改革と、具体的な授業改善を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来への展望を明確に持ち、自己実現に向けて着実に努力する生徒を育成する。 個に応じた進路指導と保護者との連携。 難関大学や最難関大学への合格実数を増やす。 生徒の主体性を重視して課題解決型の教育を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格や検定受験を奨励し、将来の進路へつなげる。 進路説明会や体験学習会の内容を充実させる。 進路室や掲示板、広報誌等の活用と個別進路指導の充実。 進学コースで難関大学進学指導を充実させる。 新テストに対応するための思考力・判断力を生み出すレポート課題の作成、及びスクーリング方法を各教科でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学、難関私立大学への受験者、合格者が増えたか。 卒業生の進路実績が向上したか。 全国の学習拠点での進学実績が伸びているか。 将来の進学や就職に有利なコミュニケーション能力を育成する。 生徒の興味・関心と社会的課題を結びつけ、解決に向けての学びを自分で設計し、実行してきたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの個別面談や保護者を交えた三者面談を実施し、丁寧な進路相談を積極的に行ったことで、進学や就職への意力向上へと繋がっている。 日本語検定に対して生徒たちが意欲的に取り組んでいる。 生徒自身が将来について具体的な目標をもてるような支援の構築。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 通信制高校の特色を最大限に活かして体験型学習をこれまで以上に拡充するなどコミュニケーション能力の育成を図ること、卒業後の進学・就職先での対人関係の構築の助けとなり、更にはこうした活動が社会全体の繋がりを強くするように思う。

学校関係者評価	
実施日 令和6年6月～	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の指導要領に基づき、教育計画を策定し実行している。策定においては、個人面談や保護者面談（一人ひとり）で得られた意見・要望に基づいた計画となっている。この計画を効率的に遂行するために、生徒達とのコミュニケーション（計画共有化・動機付け・参加呼び掛け等）を大切にしている。その結果、学校行事への理解と支持が得られることで、参加率が年々増加していることが評価できる。 	
<ul style="list-style-type: none"> HPへのアクセス増加の方法として、YouTube動画を作成してHPへ公開するなど。 マスメディアへの取材対応と正確な情報発信、官庁の教育監査への確実な対応、学校回りでの在籍生徒や卒業生の情報共有化、学校説明会における丁寧で分かり易い説明、HPに最新情報が掲載され興味を引く校正、これらを効果的に活用することで学校の特徴と優位性をアピールしている。 	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に勉強できる環境と、個人の能力を最大限発揮できるスペシャリストな教員が揃っている。更に大学受験に留まらず『ものづくり』の基本となる専門知識や技能、組織力を発揮するために必要となるコミュニケーション能力の指導も充実している。加えて、学校の理事を中心に社会で学んできた成功体験に基づく社会勉強も生徒の道しるべとなっている。 	